

## 1 自己評価及び第三者評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872700436		
法人名	社会福祉法人きたはりま福祉会		
事業所名	グループホームりんりんの里		
所在地	多可郡多可町中区鍛冶屋763番地の3		
自己評価作成日	平成23年4月4日	評価結果市町村受理日	平成23年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102		
訪問調査日	平成23年4月9日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療、看護、介護が連携し、個々の健康状態を把握しながら援助し、家庭的な住環境や生活援助のもとで住まい心地の良い生活が送れるように支援している。  
また、地域とも行事や消防等も連携しながら運営を行っている。

### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流機会を積極的に持つようにしており、地域で開催される行事へは利用者と共に出席している。また、施設全体で開催する納涼祭には、近隣にも参加を呼びかけている。小学生の有志で「しあわせ配達人」として来訪を受け、毎年交流を続けている。利用者は田畑や、山々から四季の変化を見て楽しむことができる開放感のある共有空間で職員と一緒にゆったりと過ごしている。下肢筋力の低下を防ぐために散歩の機会を習慣的に持ち、季節の移り変わりを感じながら時間をかけてゆっくりと行なっている。また、加齢に伴い徐々に自分から思いの表出が困難になるので、職員は、日々の生活を共に過ごす中で利用者の思いや願い、暮らし方の意向を汲み取り支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を共有できるように施設内に掲示しミーティング等で確認し、理念達成に向けて取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ法人理念を掲示し共有できるようにしている。ミーティングなどでは、理念について話を行い理念の実現に向けた取り組みを継続している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や外出にて地域の方々と関わりを持ち、また、地域の方々にも参加を呼びかけた行事等によっても地域との交流を図っている。	地域で開催される行事へは利用者と共に出席し地域と積極的に関わるようにしている。また、施設全体で開催する納涼祭には、近隣にも参加を呼び掛け地域と交流を持つ機会を積極的に持つようにしている。地域で暮らす家族にも参加してもらい花見にも出かけている。日常的には、気候のよい時期は、下肢筋力の低下を防ぐために散歩の機会を習慣的に行い、近隣住民とのあいさつなどでお付き合いを行っている。小学生の有志で「しあわせ配達人」として来訪を受け、毎年交流を続けている。町内のボランティアでは、踊りや歌で訪問を受け交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の他の部門との連携によって認知症やその他様々な相談に対応できるようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行っている。また、そこで出された意見をサービス向上に活かしている。	利用者家族・地域民生委員の出席の下、2カ月に1回開催している。運営推進会議に合わせて家族会も開催するため、家族の出席も多い。家族が出席しやすいように土日に開催するため、市町村の出席が困難であるが市町村には、運営推進会議の議事録で開催の報告を行い事業所の状況を把握してもらえるように取り組んでいる。会議では、活動報告、利用状況報告を行い意見交換が活発に行われ、参加メンバーよりグループホームから地域に向け積極的に情報発信をしてほしいとの意見をもらっている。	運営推進委員の構成要員として、色々な角度から意見や情報をもらうためにも知見を有する方の出席が望ましい。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者と定期的連絡を取り情報を共有するようになっている。今後、地域の連絡会などにおいても意見交換や情報交換の機会を作っていきたい。	市町村には、運営推進会議の報告などで定期的に連絡を取るようになっている。平日には包括支援センター職員の来訪も頻繁にあり、事業所の状況を把握してもらい意見交換・情報交換するよう取り組んでいる。現在、地域密着型サービスの連絡会を持ちたいと考えているとの情報もある。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、全職員が、身体拘束をしないケアを方針とし実践すると共に、研修によっても対応策を検討し取り組んでいる。	法人で年間研修計画を立て、身体拘束についての研修に参加し理解と知識を深め、身体拘束をしないケアを実践するよう取り組んでいる。昼間は玄関、窓なども施錠しておらず、利用者が自由に出入りできるようにしている。介護の観察力・個別ケアでの留意点についても研修の中でケア別、個人別に学び、年々理解を深め身体拘束をしないケアの実践を徹底するよう取り組んでいる。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止については、研修等を通じて共通認識を持ち、虐待が起こらないよう努めている。	法人で実施される研修に参加し、身体的・心理的・性的虐待について理解と知識を深めている。虐待発見時の対応についても虐待防止法から虐待の通報義務にも触れて学びの機会を持っている。	
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、研修を通して制度を理解するようになっている。	法人研修の中で成年後見制度について学び全職員で制度の理解を深めている。	
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあたっては、重要事項説明書によって料金、緊急時の対応等についても時間をかけて説明し、疑問点についても十分に説明し理解を得るようにしている。	契約は時間をかけてわかりやすい言葉で具体的な内容を含めて説明を行い同意をもらっている。特に退所・契約終了に関しては、重度化・医療依存度・入院など詳細な説明を加えている。契約内容改定の場合は、変更内容を書面化し説明を加え、家族来訪時に署名捺印をもらい同意してもらっている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員へ表せるように意見箱を設置したり、意見を取り入れやすくするように取り組んでいる。	ケアマネジャーがケアプランの説明の時に意見や要望を聴取する機会が多い。日常生活状況を報告する際にも家族からの意見や要望を聴取する機会となっており、出された意見を反映させるように取り組んでいる。「しあわせ荘だより」を3カ月に1回発行しており出された意見の反映状況を掲載し報告している。また、面会時に家族と話をする中で聞き取れた意見や要望は職員全体で共有し反映できるようにしている。意見箱も設置し意見や要望を出せるようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させるようにしている。	法人全体で実施される主任会で職員の意見を出し検討し、運営に反映させるようにしている。法人役員が、職員一人ひとりと面談する機会を持ち主任会や普段出しにくい意見や要望を聞き出す機会を持ち、意欲の向上や質の確保に役立っている。以前は、法人内で職員移動を行ったことはあるが、現在は馴染みの関係を重視し職員を固定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修を受ける機会を確保し、また、資格取得についても奨励し、研修等の参加あたっても参加しやすいように勤務を調整するなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を持っていないため、今後の課題である。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約、入所時に、本人から現在の生活状況、入所後の要望等を確認し、入所に際して安心して日常を送れるように配慮している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、入所時に、家族等が困っていること、要望等事前に聞き取り調査を行い、関係づくりを行っている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み等の相談において、本人や家族の現状や思いを聞き取り、必要とされるサービスや支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者とのコミュニケーションを図りながら、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が円滑に連携を図れるように連絡を密に行い、行事や報告会等にも積極的に参加してもらえるように働きかけている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の自宅等の馴染み場所にも希望があれば職員が同行してお連れする等、関係が途切れないようしている。	利用者が実家を見に行きたいとの意向があればお連れし、その際に近隣の馴染みの人との交流が持てるように支援している。現状、利用者・馴染みの人の高齢化があり、グループホームに訪れての面会や関係継続が難しくなっているが、近隣で暮らす方が法人のデイサービスの利用などをしており、交流の機会もある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、適宜職員が関わりを持ちながら、時に大きく介入が必要な場合かを見定めながら、利用者同士が円滑な関係を継続できるように努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後にも、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、法人内の他の部門と連携にし必要な相談や支援できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に過去の生活ぶり等を尋ねるなどして適宜対応している。	開設後6年が経過し開設当初からの利用者の中には、認知症の進行により思いや意向を十分に伝えることが難しい方がおられる。グループホームで暮らし続ける中での関係で、利用者の思いや意向を利用者の表情や行動から把握するようにしている。利用者一人ひとりの思いや意向を本人から聴取するだけでなく、家族・関係者から過去の生活ぶりなどを尋ね利用者の立場に立ち把握するようにしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等は把握に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の経過を個人カルテに記入し、その他、特物に留意すべき事項については、申し送りやノートにより過ごし方、心身状態について把握するようにしている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース検討会議等で随時話し合い、本人や家族の意向を十分に考慮した介護計画を作成している。	利用開始時に身体状況や生活状況など聞き取りを行い、1～2カ月間利用状況を確認しケアチェック表でアセスメントを行い、目標・課題を挙げ具体的な計画を作成している。計画に沿ってケアを実践し日々の様子を観察記録に記載している。モニタリングを行いサービスの実施状況を確認、ニーズの充足度から総括、再アセスメントの必要性を判断し再計画を立てている。再計画作成時には、担当会議を実施する他、利用者の担当職員から日々のケアの中から利用者の何気ない言葉や利用者の立場に立った思い・気づきを提出するようにしプランに反映させている。初期計画を作成する際には、写真入りの利用者の様子を記載した手紙で、利用者が利用開始後どのように過ごしているか家族に情報提供を行い家族の意向を聴取するようにしている。	介護計画に沿って全職員で統一した方針でケアを実践していくために、計画の浸透を深める取り組みが望ましい。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やその他気づき等やケース記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しにも活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や、希望等に対応するために他の事業との連携を図り、サービスの提供を行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣地域との連携を図り、地域行事への参加、また、医療、消防等でも地域の他の機関と協力関係を築いている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、当事業所で連携している嘱託医がかかりつけ医であることを家族に説明し同意を得ている。そして、適切な医療を受けられるように支援している。	医療連携をとっている嘱託医に定期的に受診し適切な医療を受けることができるように支援している。疾患を持たない利用者も年1回は、グループホーム全体で受診し健康診断を受けるように配慮されている。医療連携をとっており、同法人の看護師と連絡を取り、必要な指示や助言を受けることができる体制を整えている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、法人内の看護職に相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	利用者の入院時には、家族に連絡すると共に職員も同行し日常の状況や入院に至るまでの変化について病院関係者に情報提供を行いスムーズな医療・ケアを受けることができるように支援している。入院中も病院と連絡を密にとり身体・病状・退院時期について情報把握に努め、早期に退院ができるように支援している。退院が決まれば、医療機関からのサマリーによる情報提供や相談を行いスムーズに退院ができ、グループホームで生活できるように努めている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、法人内の関係者と共に支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けての方針は、契約時より本人・家族に説明を行い、事業所で「できること・できないこと」を説明し理解と納得を得るように取り組んでいる。重度化・終末期でグループホームでの対応が困難な状態になる可能性がある場合は、家族と共に話し合いを重ね法人内関係者の協力を得ながら利用者・家族のニーズをくみ取りながら支援体制を整えていくように努めている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修において、急変や事故発生時に迅速に適切な処置を行えるように訓練し備えている。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の研修計画に基づき火災等災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できるように訓練を行い。また、地域との協力体制も訓練により築いている。	法人で行われる研修の中で避難誘導訓練を実施している。避難訓練は昼夜問わずに利用者が安全に避難できるように訓練を重ねている。地域の協力体制も整備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを徹底して、特に入浴、排泄等対応については尊厳やプライドを傷つけないように対応している。	利用者への声かけや話しかけ時には、職員は声の大きさ・言葉づかいや表情に注意し、誇りやプライバシーに配慮している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の意向を尊重し、思いや希望を聞いたり、また、選択の機会や自己決定の機会を提供できるように支援している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのライフスタイルに出来るだけ沿うように対応するため希望にそって支援している。		



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの嗜好を把握し、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	同法人の施設の厨房で調理される食事の提供を受けている。利用者の希望や力量に合わせて盛り付けや配膳の手伝いをしている。季節に応じて、季節感が楽しめるようなメニューになっている。外食も取り入れており、買い物を兼ねて出かけて食事を楽しめるようにしている。食事摂取量・水分摂取量も確認し栄養状態把握や脱水予防に取り組んでいる。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの状態や能力に応じて口腔ケアを実施している。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の状態や排泄のパターン、習慣を把握し、自立にむけた排泄の支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄の状況・パターンを把握し声かけや誘導を行い、羞恥心や不安を軽減するための配慮を心がけながら排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適当な散歩やアクティビティーにより運動不足の解消に努め、また、個々に十分に水分を摂取できるように援助するなどし、便秘の予防に努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者個々の状態や希望に合わせて入浴を楽しめるように、こちらの都合でなくある程度の時間帯の中で、個々の希望にそった支援をしている。	利用者の希望や状態に合わせて入浴ができるように支援している。職員の都合に合わせて入浴することができるよう支援している。身体状況の低下によりグループホームでの入浴が困難な状態の時には、同法人の施設にある特殊浴槽を利用して入浴が安全で楽しくできるように配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者は使用している薬の目的や副作用、用法や用量についても、看護師との連携により服薬管理を行い、その状態について適宜、医師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所に至るまでの生活や趣味等の活動歴を把握し、利用者個々に気分転換が図れるように支援をしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩は、毎日季節の移り変わりを感じながら時間をかけてゆっくりと行っている。病院受診後や利用者の希望で外出できるように支援している。また、利用者の希望により、買い物や自宅へ戻り家の状態を見に行ったりと個別の外出支援を行い、住み慣れた地域の方との交流ができるように外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や能力に応じて、外出時に買い物ができるように支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をできるように事業所内の公衆電話を利用して支援をしている。また、年賀状等も馴染みの人などに書いてもらうようにしている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは、天井が高く窓も大きく明るく開放感のある空間となっている。窓からは田畑や、山々から四季の変化を見て楽しむことができる共有空間である。共有スペースの中心には椅子とテーブルを配置し居心地のよさを感じられる。また、窓の外にはウッドデッキがあり、洗濯を干したり日光浴ができるスペースとなっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるようにテーブル、ソファを配置し、それぞれ思い思いの時間を過ごせるように工夫をしている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みの物を使用できるようにし、できる限り馴染みの環境に近く居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の好みの物や使い慣れた物が持ち込まれ、安心して過ごせる空間づくりを行っている。居室のドアを開けるとすぐに広い共有スペースが見渡せ、居室でも人の気配を感じながら過ごせるようになっている。利用者の居室間違いを防ぐために居室には「かじやこんびら通り○番地」の表示がある。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、障害のある利用者でも、安心して生活できるように配慮した作りになっており、安全で自立した生活が送れるように配慮している。		